

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-530033 (P2004-530033A)  
 【公表日】平成 16 年 9 月 30 日 (2004.9.30)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-038  
 【出願番号】特願 2003-503693 (P2003-503693)  
 【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 F 2/24

【 F I 】

C 0 8 F 2/24 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 2 月 14 日 (2005.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

( a ) 材料を重合しその後不混和相を除去した際に安定な発泡体を形成することを可能にするのに十分な有効ガラス転移温度を有する少なくとも一種の重合性材料を含む反応相と、非有効量の架橋剤および少なくとも一種の開始剤系入りの少なくとも一種の乳化剤ならびに前記反応相と不混和性の液体とを混合して、エマルジョンを形成する工程と、

( b ) 前記エマルジョンを造形する工程と、

( c ) 前記エマルジョンが安定な発泡体を形成するように前記エマルジョンを重合させる工程と、

を含む非架橋高分子発泡体を製造する方法であって、前記不混和性液体が不連続相または連続反応相性との共連続相を形成する方法。

【請求項 2】

前記開始剤系は光開始剤を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記開始剤系は熱開始剤を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記開始剤系はレドックス開始剤を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記形成された発泡体は、少なくとも 30 の有効ガラス転移温度を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記重合性材料はエチレン系不飽和モノマーを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記重合性材料はカチオン硬化性モノマーである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

一種の重合性材料と乳化剤は同じ材料である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記不混和性液体は水である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記不混和性液体はエマルジョンの少なくとも 74 体積 % を構成する、請求項 1 に記載

の方法。